

原告、会員に  
お届け下さい

2018年11月14日号

生活保護制度を良くする会

ニュース

事務局 道生連  
電話 011-736-1722  
ファックス 011-736-1688  
メー ル [seihoyokusurukai@herb.ocn.ne.jp](mailto:seihoyokusurukai@herb.ocn.ne.jp)

# 「25条集会」(東京・日比谷野音)、 憲法25条守れ！と2800人参加



北海道からは、沢野天・道社保協事務局長、精神障害者を支援する会の曾我理恵さん、道生連・道本部班の高坂千明さん、吉田伸さんの4人が参加しました。高坂さんの感想を紹介します。

10月25日に日比谷野外音楽堂で行われた集会には、全国から約2,800人が集まり、憲法25条「健康で文化的な最低限度の生活を営む権利が私たちにあり、国はそれを保障する義務がある」を、国がないがしろにして私たちを苦しめている実情を訴えました。

2013年から始まった生活保護費の引き下げ、そして全国で行われている新・人間裁判で争われているにも関わらず、今年の10月から更に引き下げを始め、困窮し1日の食事を2食にしている人たちの生活実態を聞き、日本は先進国なのに生活保護受給者を保護していない、むしろ人間として扱っていないと感じます。

年金削減については、違憲であり、これから生きて行くために年金を受けている人には、上げてもらわなければいけない、将来本当に年金がもらえなくなるという不安は拭えません。

75才以上の後期高齢者の医療費負担2割

化は、病気になっても簡単に病院に行くこともできなくなり、死ぬ！と言っているようなものです。

保育の現場では、人材が不足し、卒園した児童の資格のある親に働いてもらったり、事務員や園長も現場に出ていて事務室には誰もいない状態になっている。待機児童が減っているというが、無認可の所へ入っているだけで、

認可保育園に入れなかったために利用しているので、安心して働くこともできないのです。

障害者65才問題、精神障害者の権利保障、障害者年金訴訟、社会福祉事業の現場の話聞き、生存権として25条を守り、活かすために新・人間裁判で闘っているだけでなく、社会保障や社会福祉についても勉強していかなくてはと痛感しました。

日比谷に参加している人たちは、高齢の方が多く、弁当を作ってきている方もいました。日本共産党の倉林明子参議院議員が駆けつけ、激励していただきました。

中央集会で厚生労働省に向かってプラカードを向け、シュプレヒコールしました。その後、厚労省の前に移動して、建物を包囲しコールしました。「憲法25条を守り、活かそう！」の言葉には、とても重い意味があり、いついかなる時に国民の権利として闘う武器として大切にしなければならぬのだ！と思いました。

集会と行動に参加し、「自分は小さいな」と思い、しかし、「これから自分ができることは何か」を考えて、少しずつ前に進もうと思います。